

石見銀山

博多商人と石見の火山がもたらした奇跡

博多商人神屋寿禎は、出雲の鷲に向かう船から南の山に光を見た・・・
旧記が伝える石見銀山発見伝承。日本と世界を動かした石見銀山の歴史は、500年前に博多商人の手によって切り開かれ、神屋宗湛は戦国の戦火に荒れた博多の再興に銀を投じた。福岡と石見の縁がもたらした歴史の輝きとは。

2026年 8月22日 (土)

講座 博多商人と石見の火山がもたらした奇跡

話題提供 中村唯史 (鳥根県立三瓶自然館 学芸員)

地質的な視点から石見銀山を調査するほか、遺跡の保全活用、学習に関わる。NHKの「プラタモリ」と「歴史探偵」で石見銀山、「日本百低山」では三瓶山の案内人として出演。

会場 福岡市博物館 講堂

時間 13:30～15:30 (開場13:00)

パネル展示 9:30～17:00

定員 200名 **入場無料・要予約**



←
申込みフォーム

電話でのお問い合わせ

0854-89-0183

(石見銀山世界遺産センター)

主催：石見銀山発見500年福石の縁プロジェクト実行委員会
(石見銀山世界遺産センター・大田市観光協会・NPO法人石見銀山協働会議)

後援：福岡市、大田市、大田市教育委員会、鳥根県教育委員会



筑前の博多に神屋寿禎といふもの有り

時は室町時代、戦国大名たちが覇を競っていた時代。石見銀山は時代の画期をもたらした。日本の経済力を世界水準にまで押し上げた銀の力を巡って大名たちは争いを繰り広げ、天下を統一した徳川家康は関ヶ原の戦いからわずか10日後には石見銀山の領有を宣言した。

その銀は大航海時代の雄国ポルトガルが目指すところとなり、ヨーロッパの物と文化が日本に伝わった。鉄砲、キリスト教、砂糖、パン……。石見銀山の発見がなければ、日本と世界の歴史は違うものになっていたかも知れない。

伝承によると、石見銀山は博多の神屋家の3代目、神屋寿禎が出雲に銅の買い付けに向かう船上で山に光を見たことがきっかけとされる。なぜ、博多商人が銀山に関わったのだろうか。彼らは、日本の歴史に画期をもたらしたキーマンなのかも知れない。

石見銀山の真髄に迫る



大久保間歩

限定ツアーのみで公開している坑道、大久保間歩。坑内の大採掘空間が石見銀山の銀生産の核心を物語ります。

3～11月の金、土、日、祝日に催行。

お問合せは石見銀山世界遺産センター（0854-89-0183）



大森の町並み

いにしへの鉱山町の面影と今の暮らしが共生している町並みを散策。



<世界遺産登録20周年>

東アジアとヨーロッパの文化交流を引き起こした鉱山であり、当時の痕跡が遺跡として残りつつ今の暮らしが息づいていることが評価され、「石見銀山遺跡とその文化的景観」として2007年に世界遺産に登録されました。2027年に世界遺産登録20周年を迎えます。

<発見500年>

神屋寿禎は大永年間に石見銀山を発見したと伝わり、大永7年（1527年）のこととされます。2027年は発見500年の年でもあります。